



LA MAISON



GARAKUTA-YA

LA MAISON



GARAKUTA-YA

さす、お母ちゃん
ごめんごめん。お母ちゃん

春香、おとうさん
お仕事がんばっている
からあ〜

おとうさん
おめでとう。



じゃ、いつものを頼む。

・・・はい。

がんばってござい！
祐作さん。

ほほほ・・・
いや、朝から仲の良い事で、
羨ましいなあ。



お義父さま！

五代君はこれから
お仕事ですか？



夫婦が良い家庭にこそ
丈夫で良い子が育つと
言うものじゃあ。

さうじゃあ、
春香さ。



イヤだわ、
お義父さま見てらしたんであが？
もう止めましょうって言ったのに
祐作さんったら・・・



あっ！それじゃ
僕仕事に遅れますので失礼します。
いっくるみ、響子！



え、さうですが・・・

響子さんには一つ
良い夫婦の有り様を
教えた方が好いようじゃな
如何かな、五代君？



恥ぢがしがる事はなからう。
夫婦田舎、これ以上めでたい
ことはないじゃあ。

お義父さまは、
悪いところもある
からびっしょりなわ。

それと、
余り祐作さんに恋なところ吹き込ま
ないでくださいね。
只でさえ子供ばかり父親の自覚が
足りないんだから。

ぞろぞろと、
彼には重荷じゃらら
お前を踏みなせる
事は、

ほっほっ...

ちよっ...お義父さま。
何をするんです！
止めてください！

わしはそんな事を約束した
覚えはないぞ！
それを朝から眼の前で乳繰り
おあて見せかけよって。

ダメ！お義父さん、
こんな関係はもう止めに
するって・・・

この結婚、味から上手く
いく訳無いと思っただわい！
あんな優柔不断な男にお前を
御しきれぬものか。

あめっ

ピュッ

キョッ

ほれ、もうこれなに
纏れてあるわい、
大方夜の生活も満足に寝たがせて
貰っくらんのじゃろっ。

あーっ
やっ！

お義父さん、もう止めてください。
こんな事、祐作さんに知られたら
わたし・・・

っ！まだそんな事を、
あんな男のこころなわいの
こしも見れば寂れるわい。

ズルッ

ほれ、久しぶりじゃろ。
奴と比べて見るか？
若いモノには負けんぞ。

ポロッ

はいるからで、
早くは離って
くださいー

ほほほ・・・
堪らねじやろこの臭い。
一晩洗ったからなからな〜
奴は知らねのじやろ？
おまゝがチンポの臭いが大好き
だと教えてやろうかの。

ズルッ

すじすじ
イヤきたが、
擦り付けないで・・・

服を脱がしてこそ無理じゃ。
こイツの味を知り尽くしている
その体が寂れられねじやろ。

ズルッ

ダメー・・・
それだけは祐作さんに
知られちゃ駄目！

はあ



絶がぶりが板に付いたな、
一刻館を任せながらあつかい
大人しく成り居って。
あの淫蕩なあまふとは
思えん。



こうして殺しく頭
を振って喉奥まで
飲み込めのが
好きなんじやろ。

相違わらぬと押しこめ、
子宮産んだ母乳が滲らぬ
なつて餅まこおくるみじやが。

なーに、
この葉い時期じやおぬかぢやうてせ
回し事じやう。
まあ、起き九程度に言ち事
事だあ。

止めてお義父さん
ここじゃ春香が
起きてしまいます。

それこそ、おまへの
痛みを子守唄代りに聞かせ
てやろうかの、
おれおぬに野つが寝しむじやう。

おすっ
ひっしん
おかなが寝てんわ...

しっや

もっ

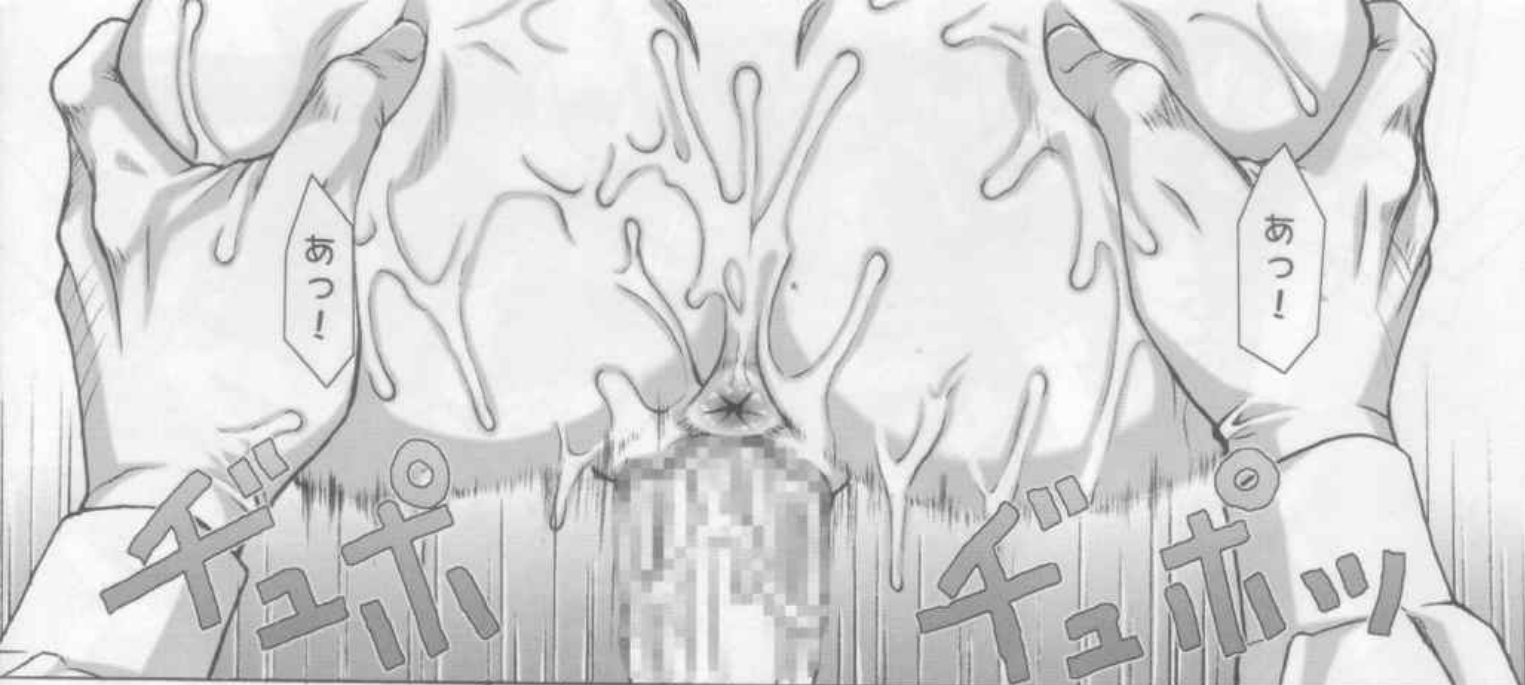
もっ

もっ

酷いの

おまへの方じやー

ズドゥン!



しかし出産で少々緩くなつたみたいじゃの。これじゃわしを射精させる事は出来んぞ。ほれ、もっと締め付けて来んか！



ほほほ、肉贅がよく絡み付いて来ゆる、おまへの膣は絶品じゃ！



おおっ！堪らん・・・
魔羅を扱き上げる様に
吸い付いて来める。
そんなわしのモノが
欲しいか？

ち・違いま・・・あ！

ああ・・・っ

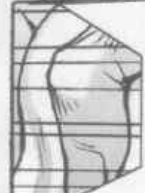
ぶるん

ぶるん



膣内に射精まで、
わしの子種を子宮
で受け止めろよ！

響子！



お義父さま、膣内だけは
許して！

駄目ッ！

アアッ

イヤァー



... じいちゃん...

... じいちゃん...

... じいちゃん...
... じいちゃん...

アア

アア





まだ昨日の事の様覚えてる。
あの日、おまへは惣一郎との結婚に反対
するわしをホテルに呼び出し……

その若い体をわしの目の前に晒し
惣一郎との結婚を懇願しおった。



おまへは自分の肉体が男を虜にし
狂わせる事を女の本能で気付いて
おったのじゃろう。

わしは事も無げにその裏に掛かって
しました……
若く豊満な肉体に溺れ心ならずも
結婚を承諾してしまつたのじゃ。



さうだ、あの時から
わしの人生は狂って
しまつたのじゃ。

この体を知ってしまった
時から……
響子、おまへを抱いた
時から……



性欲の強い惣一郎の代りに
たかぶる肉体の欲求に應えて
やったのは誰じゃ?

夫を愛し悲しお前を
毎晩慰めてやったのは誰じゃ?

おまえの望み事は
全て叶えてやったのに...

ギョッ

ギョッ

はー

はー



あんな奴...
一緒にいるなんて!

ギョッ

グッ



聖子、おまえはわしのモノじゃ
 あの日の女にしておやっを時から
 わしの手で拓き解された
 この体をあれが苦味の
 挿られて堪るか！

何故じゃ？
 わしの気持ちも知っていた
 答のに、何故わしから
 逃げる？

あぁ・・・っ！

あはっ・・・

あぁっ！

んっっ

んっっ

んっ

んっ

んっ

ズンズン
 ズチュズチュ
 ズチュズチュ



まだ痛くは無い
 わしの処に
 突って来んか？
 生活の苦労はせんで
 春夢はわしの養子に
 して妊娠は全てお前達
 に残さうっじや。

はー

はー



あの娘じゃおまを
孫おまをここに
出来はせな！
わしに捕へるおまを
選んだ！

わしがこれほど
必死にこころを
あわゆ

おまにー

は...おま



惣一郎を...一人息子を亡くし、
響子おまをまごわしからまろうと
言うのか...

この一刻館をいすれ朽ち果て
消えて往く。

ギュー
ギュー

ギュー



そして皆去り
わしだけ一人取り残されて
しまうのか...

お義父さま...



お義父さま！

わしを一人に
しないでくれー

響子！
わしを置いて往かないで
くれー！



ほ、本当か？
響子！

安心して。
私は何処にも往かないわ。
響子は一生お義父さまの抱
いいたい女です。



ハイ！
今までも、そして
これからも。



泣かないでお義父さま、
ごめんなさい・・・
そんな風に考えて居たなんて
気付かなかったの。

惣一郎

つう……

う……

う……

はあはあ……

はあ……

う……

ああっ……お義父さま、
イ……イイわ……！
もっもっお嬢ちゃん……！

う……
奥まで来る！

ヘニスの先が……
子宮口に当たって……すすっ
お嬢様を抜いちゃう

チリチリ

チリチリ



あめっ・・・！
皆に見られちゃう、
お義父さまと
交尾お義父がっているのが・・・

あめっ！

ギョ

イヤ！ お義父さま
外から見えちゃう・・・

ハイ

ハイ

フー

ヒッ

はんッ！

ギョ

あめっ・・・イク！
見られながら
イッちゃうー！！

あはん・・・！

ぐちゃ

ぐちゃ



構うものが！
見せてやれ淫蕩ぶしだら
なおまへの本当の姿を
住人に見られながら
わしと一緒にイキ果ころー！

響子ッ！

ズン

ズン

お義・・・父
イクッ！

ヒッ！

ギョ





今頃は男の子が
きつたはず。
ひやひや、さびし。

あいがとうございませう。
いや、実は予定外でして、
経済的に二人目はまだ早いと自分は
考へていたのですが、
妻子が如何しても生みたい
と言つたので。。。

ほほほ・・
それは大変であらう
生まれる子の為にも
これまで以上に仕事に
精を出さねば成りませぬな

ええ。

な、に父は居なくとも
子は育つものじゃあ。
ほほほ・・

それで最近バイト
を始めたのですが家に居る
時間が減つてしまつて・・
早くも
家株の危機がなつてつ

ハイ
ハイ

妊娠五ヶ月・・・



妊娠八ヶ月目



露下露下...



汗下汗下...



LA MAISON

GARAKUTA-YA

2009/08/16